
仮面ライダーオーズ～アナザーストーリーオーズ～

鳴神 ソラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーオーズ〜アナザーストーリーオーズ〜

【Nコード】

N2435Z

【作者名】

鳴神 ソラ

【あらすじ】

欲望の秘めしメダル、コアメダルを使う戦士オーズ、この物語は原作とはまた違った仮面ライダーオーズこと火野 映司の旅の物語

カウント0・始まりの0000(前書き)

マリオ「また始めたな…」

ネス「だね」

黒狼「あはは…」

士「さて、物語が始まるぞ」

カウント0・始まりの000

燃え上がる城のお庭と思われる場所で1体の異形を前にとある戦士が左手に複数の輝くメダルを持っていた。

そんな戦士を後ろにいた赤の怪人が戦士のやろうとしている事を止めようとして、黄色と緑の怪人に抑えられている。

さらに後ろで青と白の怪人に女性が守られていた。

戦士はそんな赤の怪人に振り返った後にまた前を向き直ると左手にあるメダルを宙へ投げた後に右手に持っていた物でそれ等をスキャンし、最後に自分の腰に装着したのをスキャンした後に飛び上がる。と戦士の前に異形に向かって、緑、黄色、白、青、紫のリングが出現し、戦士はそれを潜り抜けると異形へと向かって行く。

それに赤の怪人は緑と黄色の怪人の拘束を跳ね除け、駆け出した瞬間に戦士の蹴りが異形に決まり、周りが光に包まれ、衝撃が迸る。

赤の怪人はそれに逆らい、消えて行く戦士へ手を伸ばそうし…

???「はっ！」

現代のとある場所、青年はガバツと体を起こす。

そして周りをキョロキョロ見る。

青年「夢…だったのか？何か現実味がありまくりだったな…ってか

俺、何時の間に寝てたんだ？」

頭を押さえて呟く青年、火野 映司は起き上がるうとして右手に何か当たるのを感じ取り、それを掴み取る。

映司「何だこれ…メダル？」

右手にある金縁の2枚のメダルを見て映司は呟く。

それぞれ色と絵柄が違い、黄色には虎、緑には飛蝗が描かれていた。

映司「？アルバイト料かな？」

まあ、ありがたくいただきますと手を合わせた後に映司は着ていた警備服を脱いだ後に私服に着替えると外に出ようとした時…

ぬ…う…

映司「!？」

自分しかいない筈の場所に声が響き、映司は慌てて周りを見ると自分が寝ていたソファアの所に腕が見えた。

ただ、その腕が人ではないが…

映司「あの、大丈夫ですか？」

????「ああ…無事だ」

恐る恐る映司は話しかけると腕の人物はそう言って答える。

映司「つまり…アंकは知らない内にあそこに？」

アंक「ああ…一体どうなってるんだ？」

人気がない場所に場所を移して聞いた映司の問いにアंकは頷く。

アंक「それより聞くが…その前に名前は何だ？」

映司「俺？俺は映司、火野 映司。よろしく」

映司の前に石版を掴んだままのアंकの問いに映司は名乗るとアंकは驚いた様子を見せる。

映司「どうしたアंक？」

アंक「いや…気にするな…（こいつ…雰囲気や性格、姿以外に前も似てるなんて…偶然か？）…気を取り直して聞くが、金縁に動物が描かれたメダルを持ってないか？」

怪訝とする映司にアंकはそう言った後に後半そう聞く。

その問いに映司はさっきアルバイト料だと思っていた2枚のメダルを包んでいた物から取り出して見せる。

アंक「間違いない。ウヴァとカザリのメダル…って何でパンツなんかに包んでるんだよ！？」

映司「明日のパンツだよ、パンツと少しのお金があれば行けるから

ね

それを見てそう呟いた後にツツコミを入れるアंकに映司はそう言う。

アंक「（…こつ言う所は似てないな…）」

映司「なあアंक…このメダルやお前の持つ石版って何なんだ？」

呆れてるアंकに映司はトラとバッタのメダルとアंकの持つ石版を指して聞く。

それにアंकが答えようとした時…

アंक「！離れる！」

映司「うわっ!?!」

何かに気づいたアंकが石版を仕舞って映司の首を掴んで其の場を離れる。

すると…映司がいた場所に何かが攻撃する。

映司「何だいきなり!?!」

いきなりの事に映司が驚いていると手だけで分からないがアंकは驚いた様子で攻撃して来た者を見る。

それはゾウを奮闘させる怪物であった。

映司「何だあれ!？」

アंक「ヤミーだと!?!何であれが!?!」

驚く映司の隣でアंकが信じられないと言っ口調で言う。

映司「知ってるのかアंक!」

アंक「ああ…だが、ありえない!あいつ等が出す筈がない!」

映司の問いにアंकは答えた後に否定がましく叫ぶ。

アंक「(どうすれば…)」

そう考えていてアंकは思い出した。

今此処にあるのは自分の持つ石版と映司の持つ2枚のメダルにそして…

アंक「(こうなったら賭けだ…)映司!一つだけ方法がある!」

映司「ホントか!?!それって何だ!?!」

すぐさま考えたアंकは映司に声をかけ、映司は聞く。

アंकは石版を出すと映司の腰に近づける。

すると石版は表面の石が弾け飛びバツクル『オースド라이バー』に変わり、オースドライバーからベルトが伸び映司の腰に装着される。

アंकは右腰にあるオースキャナーを掴むと映司の右手に握らせる。
アंक「映司！お前の持つ黄色を真ん中、緑をお前から見て左に入
れる！」

映司「わっ、分かった！」

言われた通りに映司はカテドラルに真ん中にトラメダル、左側にバ
ツタメダルを入れる。

アंक「そして俺のを右側に入れて手に持ったそれでスキャンしろ
！それでお前はオーズになれる！！！」

そう言うと同時にアंकは自分の中から赤いメダル、タカメダルを
出すと銀色のメダルへと変わる。

映司「うえっ！？アंक！？」

それにタカメダルをキャッチした映司は驚いている間にゾウヤミー
が攻撃を仕掛ける。

慌てて避けた後に映司はタカメダルを入れた後にカテドラルを左に
傾けると滑らせる様にオースキャナーでスキャンした。

キーンキーンキーン！

映司「変身！」

読み込んだ後に映司は無意識にその言霊を叫んだ。

タカ！トラ！バッタ！

タ・ト・バ タトバ タ・ト・バ！！

メダルの名前が出た後に映司の周りを赤、緑、黄色、白、青の5色の無数のメダル上エネルギーが出現して回転し、不可思議な歌が流れ終わるとに映司の姿は変わった。

頭は赤く顔に緑色の複眼を持つタカをモチーフにした『タカヘッド』、体はトラを奮闘させる『トラアーム』、そして足はバッタを奮闘させる『バッタレッグ』を持つ3色の戦士、無限の欲望を制す王、オーズへと…

オーズ「これが…アंकの言っていたオーズ…それよりさっき歌は何！？」

ゾウヤミー「ぐおおおお！！」

顔を触り、手を見て呟いて戸惑うオーズだったがゾウヤミーが来たので慌てて後ろに飛ぶ。

オーズ「おっ、何か分かんないけど…力が沸いて来る！！」

とんとんとリズム良くジャンプしてオーズは言う胸のオーラングサークルのトラが発光しラインドライブを伝って腕のトラアームに送り込まれるとトラクローが展開され、次にバッタの部分が発行してエネルギーが送り込まれるとバッタ脚に変化する。

オーズ「はっ！」

すかさずバツタレッグでジャンプしてキックを叩き込んだ後にトラ
クローの一閃を与える。

オーズ「これで決める！」

吹き飛んでふらふらと立ち上がるゾウヤミーにそう言うとオーズは
オースキヤナーを持ち、カテドラルのメダルを再スキャンする。

スキヤニングチャージ！！

音声の後にオーズはバツタ脚に変化したバツタレッグでジャンプし、
落下しながら空中に発生した赤・黄・緑の3つのオーリングを潜り
抜けて行き…

オーズ「せいやあああああ！！」

最後にゾウヤミーに両足蹴り、タトバキックを叩き込む。

ドカーン！！

爆発を背にオーズは着地すると共に爆発した所から2枚のメダルが
飛び出す。

オーズ「おっと…これって!？」

気づいたオーズがその2枚をキャッチすると1枚を見て驚く。

今カテドラルに収められてる奴と同じ金縁で灰色に近い黒のゾウが
描かれたメダルであった。

オーズ「これって…」

オーズはメダルを抜いた後にカテドラルを水平に戻して変身を解く。

映司「聞きたいけど…どうすれば戻るんだ？」

色々聞きたい事があるが聞きたい本人はタカメダルになってるので映司は困っていると…

???「そのメダルをセルメダル…あのメダルの山に投げ入れてください」

いきなりの声に映司は驚いていると早くと催促され、映司はアंकがいたメダルの山に言われた通りにタカメダルを投げ込む。

すると…メダルが浮かび上がり、再びアंकへと変わる。

映司「アंक！良かった！」

アंक「ってか映司、お前どうやって戻し方を？急だったから教える暇がなかったのに」

???「私ですアंक」

ほっとする映司にアंकは戸惑って聞くと映司が聞いた声に2人はした方を見る。

そこにいた神々しい雰囲気を出す女性に映司はあつと声が漏れる。

映司「夢の中に出て来た人!？」

アंक「女神！お前なんで！？」

それぞれ別々の反応をする2人にアंकに女神と呼ばれた女性は映司を見て懐かしい物を見る感じな目で見た後に言う。

女神 ネスト「久しぶりですアंक、そして初めまして新たなオーズ：私はネスト：800年前にコアメダルを錬金術師と共に作り上げた者です」

映司「メダルを作り上げた？」

アंक「それよりも800年前ってどう言う事だ！？」

ネストの言った事に映司は驚き、アंकはネストの言った事に噛み付く。

ネスト「言葉通りです。アंक：あなたはあの時、その腕に意思の入ったメダル1枚と共に時間を跳んだのです：その際、エ：先代のオーズがあの時使用したあなたの以外の沢山のコアメダルと共に：」

映司「その内の3枚がこれですか？」

ネストの言葉に映司はトラとバッタとゾウのメダルを見せる。

トラとバッタを見たネストは驚きの表情を見せた後にそれをしまつてええ：と頷く。

ネスト「ただ：それ等と違い、他のメダルは様々な世界にバラバラに飛びました」

映司「別の世界!?!」

アंक「何!?! コアメダルは素人が誤って使えば大変な事になるぞ!」

ネストの言葉に映司とアंकが驚いた後

ネスト「だからあなた方には世界の破壊者の様に様々な世界を旅し、コアメダルを回収して欲しいのです」と言う訳で言ってるじゃない」

真剣な顔で言った最後に笑顔でそう言うと同時にどこからともなく出て来たヒモを引っ張ると映司の下に世界の壁が現れ、なぜか浮いてる筈のアंकと共に落ちる。

映司「ええええええええええ!!?!」

アंक「こんな所でお茶目するか普通うううう!!?!」

世界の壁に飲み込まれる映司とアंकの叫び声が響いた後に完全になくなると世界の壁が消える。

ふうと息を吐いたネストの後ろに赤髪と赤い翼を持つ少女が立つ。

少女「あの…私を同行させるのではなかったのですか?」

ネスト「あつ…ごめんなさいカルちゃん、追いかけてくれない」

少女、カルの言葉にネストはしまったと顔で表現した後になんか言い、

カルはため息を付いた後に世界の壁を作り、その中へ飛び込む。

ネスト「頼みます…新たなオーズ…映司…」

別の場所のとあるビルで1人の男がケーキを作っていた。

男「誕生したか…新しいオーズの誕生を祝おう…」

作りながら男はそう言い、笑った後に仕上げに中央に000と描く。

男「ハッピーバースデー！仮面ライダーオーズ！！」

今…こうして正史とかけ離れたオーズの物語は始まった。

カウント0・始まりの0000（後書き）

ワタル「始めましたね」

シヨウイチ「節操ないよな内の作者は…」

モモタロス「だな」

ウラタロス「続きを待ってね」

カウント1・不死鳥のコンボ(前書き)

カウント・ザ・メダルズ!

現在オーズの使えるメダルは

タカ 1

トラ 1

バッタ 1

ゾウ 1

カウント1・不死鳥のコンボ

映司「あいたつ！」

前回、ネストに落とされる感じで別世界に飛ばされた映司は地面に落ちる。

映司「あいたたた…」

鼻を押さえながら映司は立ち上がる。

幸いだっただのは落ちた場所が砂浜だったのが良かった。

アंक「大丈夫か映司？」

映司「なんとかかね…それにしても此処はどこなんだ？」

周りを見て映司は呟く。

アंक「……落とされた場所が場所だからな…ちっ、コアメダルの気配がなかなか感じられないな…ん？」

同じ様に周りを見たアंकはそう呟いた後にある方向を見る。

映司「どうしたアंक？」

アंक「微力だが感じる…コアメダルだ！…だが、おかしい…」

映司の問いにアंकはそう答えた後に怪訝とする。

映司「何だよ？」

アंक「俺のメダルの気配もする。ネストの話しでは俺のメダルは飛んでない筈だが…」

映司「うーん、行って見れば分かるんじゃないか？」

呟くアंकに映司はそう言い、それに一理あるなど答えた後にアंकは気配のする方へ飛び、映司も続こうと走る。

映司はその間にオーズの事を聞いて走っている中…

アंक「！」

映司「おわっ！…アंक！止まるなら止まるって行ってくれよ！」

急に止まるアंकに映司が文句を言う。

アंक「悪い…だが、どうやら一気に手に入れられそうだな…」

謝った後、アंकはそう言うと2人の前に3体の異形が立つ。

それぞれチーター、カマキリ、ゴリラに近い姿をしている。

映司「もしかしてこいつ等ヤミー？」

アंक「ああ、ゾウの時もそうだが奴等を倒せばメダルが手に入るかもな」

映司の問いにそう答えると同時にアंकはタカメダルへ戻ると映司はオーズドライバーを装着した後に3枚のメダルを装填してスキヤンする。

キーンキーンキーン！

映司「変身！」

タカ！トラ！バツタ！

タ・ト・バ タトバ タ・ト・バ

オーズタトバコンボに変身すると駆け出す。

最初にカマキリヤミーにトラクローで攻撃して行くと隣からゴリラヤミーが殴りかかる。

オーズ「うわっ!?!」

それにオーズは吹き飛び、立て直そうとした所チーターヤミーが連続で攻撃する。

オーズ「くっ！」

最後に人蹴り入れられた後に倒れこむオーズに3体のヤミーはジリジリと近寄る。

オーズ「(どうすれば…)」

それに立ち上がりながらオーズはこの状況にどうすれば良いか考えてる時、走ってる時にアंकから聞いた事を思い出した。

映司「コンボ？」

アंक「ああ…タトバも一応コンボだが、同じ種類のメダルのコンボはそれを遥かに超える力を持つ…まあ、今…と言うかしばらくは無理だろうがな」

前を飛んでいるアंकはそう言って自分の持つメダルを見せる。

映司「どうしてだ？」

アंक「俺は今自分を維持してるのしかない、先代オーズが使った他のは1種類除いて頭の部分に担当するメダル以外だからな…あいつ等に会わない限り無理だ」

映司の疑問にアंकはそう言う。

オーズ「(今の状況を打破するにはコンボが良いかも知れない。だけどそのメダルはない…粘ってやるしかない…諦めなければ勝機が来る…頑張るんだ…今の俺は…)」

立ち上がりながらオーズは噂を思い出す。

とある街で怪人と戦う戦士の事を…噂でその戦士に与えられた称号…仮面を纏い、バイクに乗って人々の笑顔を守る戦士

オーズ「（その戦士と同じ、仮面ライダーなんだ!）」

ドドドン!!

そうオーズが叫んだ瞬間、オーズとヤミーの間に火炎弾が放たれる。

それにオーズが驚いているとオーズの隣に少女、カルが降り立つ。

カル「遅れてしまつてすいません」

オーズ「えっ?君誰?」

謝るカルにオーズは戸惑いながら聞く。

カル「カルと言います。女神様からあなた達の旅に最初っから同行するつもりだったんですがあの人がお茶目な事したので遅れました…映司さん、これを」

自己紹介して自分がいる理由を言うとカルはオーズにある物を渡す。

それは…クジャクとコンドルが描かれた2枚のメダルであった。

オーズ「これって!?!」

カル「驚いてる暇があるなら早く!」

驚くオーズにカルは催促するとオーズはトラとバツタのを変えてスキャンする。

オーズ「行くよアंक！変身！！」

キーンキーンキーン！

仮面ライダーと言う強い意志を秘めてオーズは叫んでスキャンする。

アंक「タカ！クジャク！コンドル！」

タージャードル

タトバとはまた違った不可思議な音楽と共にオーズの姿はタカヘツドが変化した『タカヘッド・ブレイブ』、飛行能力・攻撃力に優れて右腕にタジャスピナーを装備した『クジャクアーム』、キック力・飛行補助機能に優れる『コンドルレッグ』でオーラングサークルが不死鳥を描いた『仮面ライダーオーズ・タジャードルコンボ』にコンボチェンジした。

オーズTC「はっ！」

全身が赤く輝くと共に6枚の翼が出て炎を発し、それに3体のヤミィは後ずさる。

オーズTC「はっ！」

ゴリラヤミーに炎のパンチを叩き込むと左からカマキリヤミーとチーターヤミーが来るが、何かが現れ、2体を殴り飛ばす。

殴り飛ばしたのは…映司が夢で見た赤い鳥の怪人であった。

オーズTC「アंक…」

思わず呟くオーズTCにその怪人、アंकは頷いた後に消える。

オーズTC「たっ！」

それを見た後にオーズTCは回し蹴りを放つとコンドルレッグに装備されたストライカーネイルの一撃がゴリラヤミーに炸裂する。

カマキリヤミーより復帰したチーターヤミーが攻撃しようとしたが再び現れたアंकの回し蹴りにより2体と同じ場所に飛ばされる。

オーズTC「はっ！」

両手を前に出し、少し手を引くとオーズTCの後ろに七色に輝く無数の羽手裏剣・クジャクフェザーが出現、その後にオーズTCは思い切り両手を前に突き出すとその羽手裏剣が全て、3体のヤミーに当たる。

オーズTC「これで決める！」

そう言うとオーズTCは6枚の翼、クジャクウイングを展開すると飛び上がり、オースキャナーを持ち、カテドラルのメダルを再スキャンする。

スキャンニングチャージ！！

音声の後にオーズTCは飛翔しながら出現した赤い3つのオーリングを隣に現れたアंकと共に潜り抜ける。

オーズTC「せいやあああああ！！！」

アंकが両足に炎を纏い、オーズTCはクロー状に変形し炎を纏ったコンドルレッグでの両足蹴り、プロミネンスドロップを3体に叩き込む。

ドカーン！！

爆発を背にオーズは着地するとその手に3枚のメダルがあった。

アंक「なにいいいいいいいい！！？」

数分後、カマキリヤミーとチーターヤミーのセルメダルを含めて吸収して復活したアंकはカルの言った事に叫ぶ。

カル「もう1度言いますが：私はあなたの人格が離れた後の抜け殻の体を元に作られました」

アंक「何してくれてんだあの女神いいいいいい！！！人様の体を勝手に作り変えて弄りやがってええええ！！！！#」

笑顔で言うカルにアंकは此処にはいないネストに怒鳴る。

カル「そう言っても、あの後、女神様はあなた方に先代オーズがいなくなつた後で寂しさがいっぱいだった所にあなたの体にあつた夕

カメダルの1つに意思…つまり私が生まれたのでそれを見て女神様は寂しさ&妹が欲しかったので今の私にしたんですよ」

アंक「前半ともかくこっちはー！ー！ー！ん！！！！#」

映司「まあまあ…それでさ、アंक以外のグリーの皆はどうしてるの？」

カルの言葉にさらに怒り出すアंकをなだめつつ、映司はそう聞く。

カル「それが…800年前のあの衝撃で4人共、意思が入ったメダルが壊れかけと言う死にかけの状態に陥っていたので長い年月をかけて修復中で今はもう少しと言う所になってるんです」

アंक「成る程な…コアメダルは欲望の塊だ…修復には長くかかるのは当然だな…」

困った顔をするカルに怒りを納めたアंकはそう言う。

映司「それで…コアメダルは3枚揃ったね」

カル「あつ、後映司さんこれ」

チーターメダル、カマキリメダル、ゴリラメダルを見て言う映司にカルはタカメダルを渡す。

カル「いちいち本体がメダルに戻っていると大変でしょうからそれを使ってください。他のは私が預かります」

映司「分かったよ」

アंक「ってか元々は俺のメダル！…ええい！必要な枚数以外の俺のメダルを渡せ！」

笑顔で言うカルにアंकは怒鳴るとそれに耳を塞いで音を小さくしていたカルは懐からクジャクとコンドルのメダルを取り出してアंकに投げ、それをアंकは取り込む。

アंक「こうなったら一から体を作るしかないな」

カル「ですが、体を作るにはセルメダルは大量に必要ですよ」

アंक「ちっ！そうになると長いな…」

映司「それじゃ…アंक、お前が気になった方へ行くか」

2人の会話を聞いていた映司はそう言うとアंकはこっちだと飛んで、それをカルと映司は追う。

この後、3人は映司が噂で聞いた仮面ライダーと出会うのだが…それは別の物語である。

カウント1・不死鳥のコンボ（後書き）

NEWメダル

クジャク、コンドル、カマキリ、チーター、ゴリラ

使用コンボ

タトバ、タジャドル

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2435z/>

仮面ライダーオーズ～アナザーストーリーオーズ～

2011年12月10日01時49分発行